

調律師がご案内するピアノと音楽のとおきの世界

音の扉

Vol.

3

巻頭寄稿

蜜蜂と遠雷を振り返る

ピアニスト

日本ピアノ調律師協会会員

アールアンフィニ・レーベル代表

音楽プロデューサー 兼 録音エンジニア

河村 尚子

数馬 暁洋

武藤 敏樹

巻頭特集

事業に掛ける思い

日本ピアノ調律師協会

前会長 齊田 健

日本ピアノ調律師協会

元静岡支部長 宮下 昌己





「音の扉」3号 目次

巻頭寄稿

蜜蜂と遠雷を振り返る

- 4 私の「蜜蜂と遠雷」
ピアニスト 河村 尚子
- 8 映画「蜜蜂と遠雷」協力調律
日本ピアノ調律師協会会員 数馬 暁洋
- 11 今回の映画に関わった録音技師 武藤 敏樹さんにインタビューをしました。
オールアンフィニ・レーベル代表 武藤 敏樹
音楽プロデューサー 兼 録音エンジニア
聞き手 大嶽壽宏

事業に掛ける思い

- 15 日本ピアノ調律師協会 事業に掛ける思い
日本ピアノ調律師協会 前会長 齊田 健
- 19 成功例 未来のピアニストを応援するコンサート
日本ピアノ調律師協会 元静岡支部長 宮下 昌己
- 21 褒章受賞インタビュー
一般社団法人日本ピアノ調律師協会 理事 勝木 晴一

歴史的ピアノ探訪その2

安城高等女学校旧蔵「南吉ピアノ」
日本ピアノ調律師協会／中部支部 伊東基貴

それぞれの音楽事情発信

- 27 海外音楽事情 ピアノと調律師 山本 有宗
- 31 浜松からチョウ(周)先生へ 田中 良司
- 33 音楽教室のコンクール活用法 杉山 園実
- 35 思わぬ出来事 矢作 クノッフ 有香

ピアノのはなし その2

弦張力とその保持の仕組み

音の扉4号 会員コーナー原稿募集

- 39 <会員コーナー> 思わぬ出来事 清水典子 小野純一 山脇健次
小林忠義 石田智子

表紙の絵について

家族皆でアンサンブルをイメージした絵となりました。これは私の夢ですが、小さい頃に家族で奏でた楽しさは、幾つになっても忘れることなく頭の片隅に残っています。上手、下手でなく、大好きな人達と一つの事をする楽しさ「…ごっこ」です。音を楽しむ事が音楽。東洋・西洋それぞれの音楽文化の垣根を取り払い、皆さんごぞって奏でましょう。

十二所 秀正 (日本ピアノ調律師協会 / 関東支部)

みつばち
えんらい
蜜蜂と遠雷を振り返る

私の「蜜蜂と遠雷」

ピアニスト

河村尚子

周りには音が溢れている

現代社会の中、音楽は普段の生活には欠かせないものと言えるでしょう。19世紀には音楽会に脚を運ぶか、自ら家庭内で音楽を奏でるかで



Hisako Kawamura Profile

ハノーファー国立音楽芸術大学在学中、ミュンヘン国際コンクール第2位、クララ・ハスキル国際コンクール優勝。ドイツを拠点に、ウィーン響、バイエルン放送響などにソリストとして迎えられ、室内楽でもカーネギーホールなどで演奏。日本ではP.ヤルヴィ指揮NHK響など国内主要オーケストラと共演を重ねる傍ら、ヤノフスキ指揮ベルリン放送響、ピエロフラヴェック指揮チェコ・フィル等の日本ツアーに参加。文化庁芸術選奨文部科学大臣新人賞、新日鉄音楽賞、出光音楽賞、日本シヨパン協会賞、井植文化賞、ホテル・オークラ賞、2020年には第32回ミュージック・ベンクラブ音楽賞独奏・独唱部門賞、第12回CDショップ大賞2020・クラシック賞、第51回サントリー音楽賞を受賞。主なCDに「シヨパン:ピアノ・ソナタ第3番&シューマン:フモレスケ」「ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番&チェロ・ソナタ」「シヨパン:24の前奏曲&幻想ポロネーズ」、「月光」「悲愴」を含む待望のベートーヴェンのCDを2019年4月にリリースし、続けて10月にはベートーヴェンの「熱情」等を取めた最新譜が発売された。(RCA Red Seal)。さらに昨年秋に公開された映画「蜜蜂と遠雷」(恩田陸原作)では主役・栄伝亜夜のピアノ演奏を担当した。現在、ドイツ・エッセンのフォルクヴァング芸術大学教授。オフィシャル・ホームページ <http://www.hisakokawamura.com/>

したが、ラジオ、レコードやCDプレーヤーが普及するようになった20世紀には楽器が弾けなくとも自宅で音楽を楽しめるようになりました。21世紀に近づくに連れて音源を再生する機械がどんどん小さくなり、道中どこにいても手軽に気軽に聴けて、あたかも自分の呼吸かのようにならなくても音楽と接するようになりました。

日本に滞在する時に気付くのですが、横断歩道でかかるメロディやサイン音、商店街やお店で流れるテーマソング、電車の駅で鳴る発着音、トラックが後進する時に発信されるメッセージ合図音、あらゆる場所で音が鳴っています。人が多いから、音の合図がないと反応しないのかな？と疑問に思ってしまう程、音に埋もれているように感じるのは私だけなのでしょうか？

えっ 映画音楽録音？

様々な場面で音が鳴っているからこそ当たり前となっっている音楽ですが、例えばサイレント映画を上映していた100年程前のロシアに、毎日を生き抜くための糧を稼ぐアルバイトとして映画の場面に合わせてピアノを演奏していた若かりし作曲家D. ショスタコーヴィチがいたということは大変有名ですね。その頃の当り前とは映像と共に音が鳴らないこと。第1回シヨパン・コンクールに出場したことがあるシヨスタコーヴィチのピアノで観る映画は、今となっては大変な希少価値がありそうですね。

そんな映画の世界と全く異なる世界に生きる私に、「映画で使用される音楽を録音する」というお話が舞い込んできたのは丁度2年前の春でした。作家・恩田陸さんの作品、国際ピアノ・コンクールを舞台にするベストセラー小説「蜜蜂と遠雷」が映画化され、登場人物である4人の若いコンテスタント達をフォーカスする中、それぞれの人物の演奏をプロの若手ピアニスト

4人が担当するという事でした。映画のために音楽を録音することは初めての経験ではありましたが、映画化される前から恩田さんの小説を読み、大きな感銘を受けていた私は、チャレンジしてみよう！と直ぐに引き受けました。

「春と修羅」は傑作

この映画ではバツハ、ベートーヴェンからプロコフィエフまでのスタンダードなクラシックピアノ音楽を録音しましたが、小説の中で登場する架空の作曲家がコンクールのために作曲した課題曲「春と修羅」を勉強し、録音まで仕上げることが大変ユニークでした。国際的に活躍する作曲家の藤倉大さんが手がけた「春と修羅」では、映画上の登場人物が個々に考え抜いたカデンツァ（演奏者の芸術的・技巧的実力を最大限に提示できるように、音楽を自分自身で自由に形成できるパート）を4人分4通りで作曲さ

れています。小説と映画の双方でもかなり沢山のページと時間がこの「春と修羅」のカデンツァに費やされていることから、この課題曲のカデンツァが小説と映画の鍵となっていることが分かります。藤倉さんの4つのカデンツァを見比べてみると、本当にたった一人の作曲家が作ったのだろうか？と疑うほど、それぞれ音楽的スタイルが異なっていて、考え抜いて作られた作曲の超絶技巧は、大変素晴らしい創作だと思います。

録音結果から見ると信じられないかもしれませんが、様々な音楽の要素から成り立つこの難曲の楽譜が手元に届いたのは、実際に録音する2週間程前だったので、時間に追われ譜読みに苦しみましたし、音楽に慣れるまで時間がかかりました。勉強し始めた頃は、何故ここまで難しいの？と毎日のように膨れっ面を家族の皆に見せていました（八つ当たりしたかもしれませんが、ごめんなさい！）。シンブルな優しい旋律が簡素に書かれていたと思いきや、遂に老眼が始まったか？と目元がしょぼしょぼとなるような細やかな音符が微妙に変化し、春に新芽が

芽吹くかのような様子がゆっくりと描写されていて、自然の美を感じました。私は登場人物の栄伝亜夜のカデンツァを弾く役で、ジャズ風で和声がどっしりとしていて、ふくよかな音楽である反面、技巧的でリズムカル、そしてとてもノリの良い音楽であるカデンツァが次第に大好きになり、作品全てを思い通りに弾けるようになると、より一層楽しい曲となりました。挑戦⇨苦難⇨成功があるからこそ、大きな喜びが味わえるのだなと感じた貴重な時間でした。

ドイツ・エッセン市にあるフォルクヴァング芸術大学で教鞭を取る私は、国籍を問わず、学生たちに現代音楽課題曲として藤倉さんの「春と修羅」を挑戦させるようになりました。そう、学生たちを苦しめています…

吹っ切れた栄伝亜夜 聴いて欲しい

映画のための音楽録音を終えてから1年後、映画館で観た時の興奮と言ったら！役者さんの素晴らしい演技と会話。そして栄伝亜夜が自信を無くし、過去のトラウマにまわりつかれて本来の音楽の楽しみを見失う場面は、音楽家ならば誰もが経験したことがあると思います。その気持ちに分かるからこそ、同じく暗く重い気持ちになりましたが、その恐怖を乗り越えてチャレンジする気を取り戻したクライマックスのプロコフィエフのピアノ協奏曲では、吹っ切れる栄伝亜夜と共にすっきりとして、ポップコーンのバケツを映画館入り口のゴミ箱に放り込む私がいるのでした。

春と修羅曲他、左記参照ください



映画「蜜蜂と遠雷」協力調律



数馬 暁洋

日本ピアノ調律師協会会員

Akihiro Kazuma Profile

大手楽器メーカー調律学校卒業後、グランドピアノの手造り工程を担当。1991年渡欧。エバート・フェーゲレ氏（ドイツマイスター審査官）、アンジェロ・ファブリーニ氏（ポリーニ・アシュケナージ・故ミケランジェリ他の専属調律師）の下で研鑽を積む。帰国後、セミナー・演奏会等の企画運営に携わり、ロシアピアノスクールを立ち上げると共に全国的な調律技術の指導を行う。退社後、カズマピアノ調律事務所設立。

主な調律歴……ベルリンフィルハーモニー交響楽団木管・金管アンサンブル、ゲルハルト・オピッツ、ポリーニ、實川風、ハービー・ハンコック他多数。25年間に渡り、地方の手造りコンサートを無償で支援。未来の音楽家には演奏会の提供、留学先の紹介サポート。国内外における彼らのコンクール入賞実績は延べ100回を更新中。

一昨年の春、早朝の電話でした。「横浜のホールを四日間借り切った。ただし当日目にした事や録音内容等は公式発表がなされるまでは一切口外禁止。演奏者以外は極力接触しない事。難易度の高い仕事になるが、よろしく頼む。では当日

お会いしましょう。」突然ドラマの中に放り込まれたような私……。

発信元は武藤敏樹さん。超一流の録音技師で音楽プロデューサー、藝大ピアノ科卒の演奏家でもあり音楽コンクール審査員でイタリアン・レストランの経営者。制作したCDは専門家の評価が非常に高く、レコード芸術特選の常連。その縁は、ある若手ピアニストのCD制作から始まったのです。少年時代より調律を担当していた實川風（ジツカワカオル）さんがデビューするにあたり、私に調律を希望していただき、それから様々な録音で起用していただくようになったのです。

でも今回はいつもと何か違う。そんな気持ちで当日の朝を迎えました。録音は通常三日間。私は九時前に会場に入ります。舞台上には既にピアノがセットしてあり、複数台所有しているホールでは私が指定するピアノがいつもより下手寄りに配置されています。この時点では今日の仕事について判っていること、実はとても少ないのです。性別と年代、大まかな作品だけ……。しかし録音ジャンル

が多岐にわたる場合には奏者の休憩中に調律・整音、時にはタッチ変更が伴うため事前に録音順序の打合わせがなされます。奏者については事前の情報による先入観にとらわれず、当日のリハーサルを見て聴いて録音技師と認識を共にするのが良いのですが、武藤さんのような天才の域にある人と感性や聴力に大きなズレがあつてはならない訳で、そこが非常に悩ましいところなのです。

今回の録音は黒木雪音さん・福岡洸汰朗さんと藤田真央さん。説明の必要もない方々です。お馴染みのクラシックジャンルに新作の現代曲が加わり、ステージから離れた客席には映画関係者や出演者、この小説の作家等が息をこらしています。近現代や無調性・新作等の録音ではごく限られた人の能力にチェック機能を委ねざるを得ないように感じます。私もモニタールームで一緒に聴く時がありますが、作品を様々な角度から分析・研究し、納得したうえで数多くの演奏を経る録音する奏者は、同じフレーズを何度

弾いても安定しているので後の編集が進みやすいのですが、感性で弾く若き天才型奏者においてはテンポ・ニュアンス等、毎回異なる場合があるのです。演奏会ならば弾き直しは一切存在しませんが、録音では完全に弾き切った部分を担保としたうえで、いくつかの気になるフレーズを追加完成させ、編集を経て完了となるため、部分的にいくら素晴らしいでも残念ながらうまく編集できないというジレンマが起こりうるのです。

更に幾度となく弾き直すことによる体力の消耗や集中力の低下……。経験豊かな技師は奏者よりかなり早く休憩のタイミングを想定しているのです。さて、休憩中には気分転換のため会話や軽い飲食補給がなされます。この時、効果絶大なのが秘かに期待の陣中見舞い・差し入れです。複数の控室では、支援者や友人・家族等がモニターテレビの前に陣取っている事もあり、通路に設置されたテーブルの上にはいつの間にか山のようなおむすびやサンドウィッチ・お菓子・飲み物等が並び、さながらミニコンビニ状態。

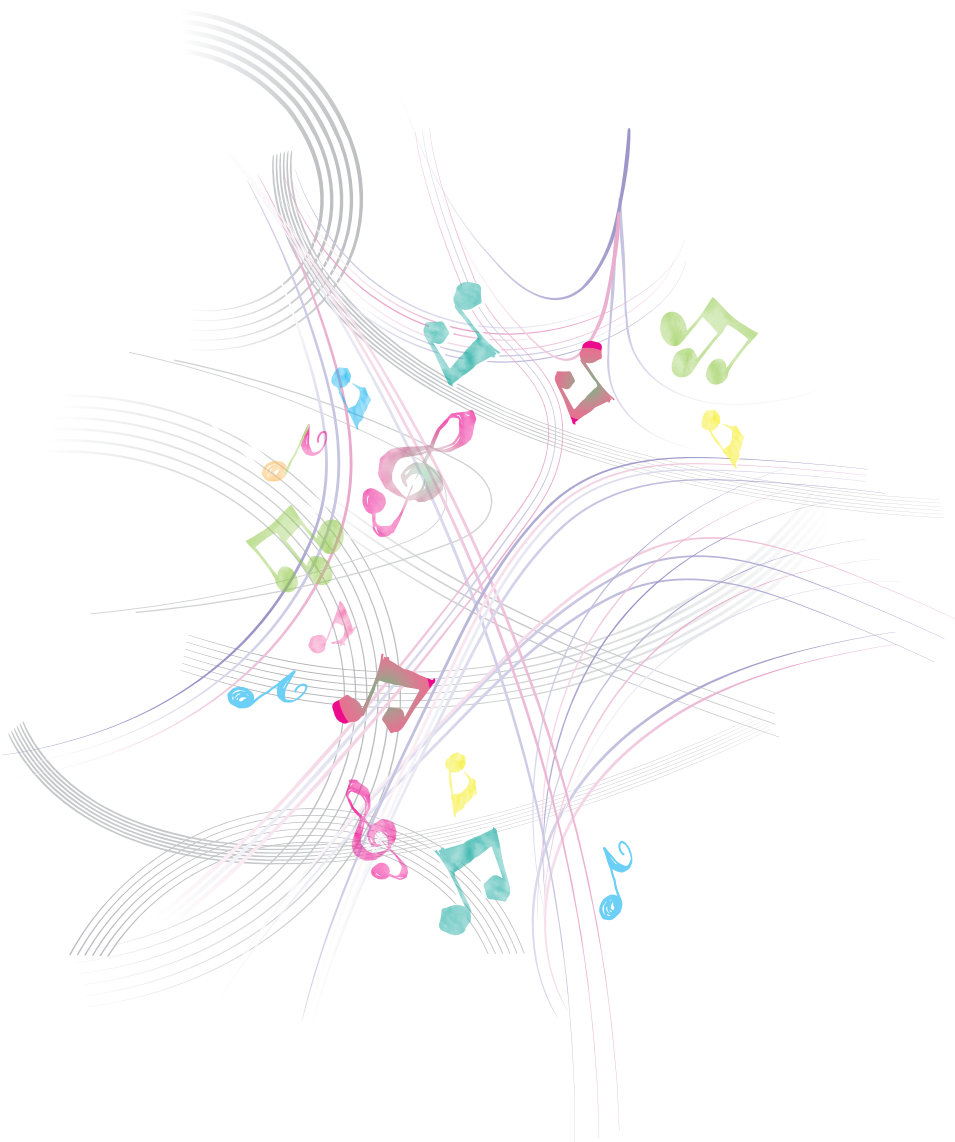
これが功を奏して、見事復活した事例は数知れません。ただ、奏者の休憩時間は私の仕事時間。通常は弾き終えた部分を奏者がモニタールームで確認している間に、何度となくピアノの状態をチェック。手直ししているのですが、休憩こそ私にとって貴重な時間なのです。この後、演奏される曲・フレーズに対しての調整を行います。同一の音であっても楽章によつては両極端なものが要求される作品が稀にありますので、数多く聴くことで何を感じ取るかの大切さを幾度となく痛感しております。



さて、録音やコンサートを通じて初めての奏者と巡り合う機会が生まれます。無事終了後に「今後も録音の時は担当して欲しい。」「コンサートだけではなく、家のピアノも担当して欲しい。」などと希望された時は本当に嬉しいものです。又、知人を紹介していただいた時なども同様ですが、それとは別に、超一流の録音技師から「ありがとう。今後もよろしく。」という言葉をかけられた時、大きな喜びと同時に緊張感が到来するのです。「良かった!! とりあえず首の皮一枚つながった。」正直毎回こんな感じで仕事をしている私なのであります。録音もコンサートも、家庭のピアノ・学校・保育園のピアノも、次回もまた依頼いただけますようにと必死に生きている六十五歳のただの爺様なのです。そうそう、それはとても厳しい家内の管理監督下で……。

全国の協会の皆様、小冊子がお手元に届く頃には、コロナも一応収束し、以前の状態に近い活動が可能になっている

のではないかと信じておりますが、くれぐれも皆様お元気で、一日も長い調律活動を目指して共に頑張ってくださいませう。そしてこの小冊子が未永く継続される事により、これまでにはほぼ未知の世界だった調律の分野と、全世界的な協会の活動を多くの方々知っていただく事は、無尽蔵の波及効果を期待できるものと信じています。誰もが知る天才ピアニストは年若き時点で既に悟ったといわれます。「我々の演奏は調律師次第。施した仕事以上の事はできない。結局我々は調律師の仕事を反映する助手みたいなものさ。」あまりにも極端で戸惑ってしまいますが、職人の技を芸術の域にまで高める。その気概を胸に日々活動されている皆さんの歩みは、星の数ほどある職業の中においても群を抜いて清廉にして誇り高きものである事を強く感じるのであります。



今回の映画に関わった録音技師
武藤敏樹さんにインタビューをしました。

聞き手 大嶽壽宏

Toshiki Muto Profile

4歳からピアノをはじめ、第31回全日本学生音楽コンクールピアノ部門中学校の部全国第一位。東京藝術大学附属高等学校を経て、東京藝術大学音楽学部ピアノ科卒業。(株)CBCソニー(現ソニー・ミュージックエンタテインメント)入社後、多数のクラシック・アーティストのCDアルバムをプロデュース。これらのCDで「日本レコード大賞・企画賞」「国際F.リスト賞レコードグランプリ最優秀賞」「文化庁芸術祭優秀賞」受賞。アールアンフィニ・レーベルにおける横山幸雄全てのCDにおいて、レコード芸術誌「特選」他、多数のアーティストのCDにおいて「特選」を輩出している。30年の歴史を誇るドイツのクラシック音楽情報誌「Klassik Heute」において、「福岡洸太郎/France Romance」のCD録音評で10点満点を獲得。

現在、ソニー・ミュージックダイレクトとミュージックエンタテインメントのパートナーシップによるクラシック専門レーベル「アールアンフィニ」代表。(株)ミュージックエンタテインメント代表取締役。又、葉山で一日一組のイタリアン・レストラン「ラサーラ」を主宰、自家農園での手作り野菜が人気を博している。

アールアンフィニ・レーベル代表
音楽プロデューサー兼録音エンジニア

武藤敏樹

大嶽 毎日映画コンクール大賞受賞おめでとうございました。映像・録音の素晴らしさも実写の中で拝見拝聴しました。まずは、録音エンジニアの仕事内容を説明下さい。

武藤 私はソニーミュージックでクラシック音楽のプロデューサーやディレクターを長くやっていまして3年程前に独立しましたが、今は録音エンジニア（録音技師）の仕事も兼務してします。

通常プロデューサー企画の下、エンジニアが録音実務を行うわけですから、双方の意思の疎通が重要です。音の強弱やニュアンス、楽曲の解釈等をアーティスト、プロデューサー、エンジニアの3者がやり取りしながら進めますが、プロデューサーとエンジニアを兼務する場合それは直結していますから、意思疎通の齟齬（そご）やズレはないため一人で行うメリットと言えるかもしれません。一方でアーティストが発する音へのイメージや要望はアーティストそれぞれ独自のボキャブラリーであることが多いため、誤解のないように意思疎通を行うことがとても重要です。欲しい音をどのように

表現しているのか、どのように伝えたら良いのか語彙（ごい）伝達の難しさがあります。

大嶽 本場ドイツでは資格制度があり、大学内で専攻されると聞いた事がありますが、何処で基本的な勉強をされたのでしょうか。

武藤 私は東京芸術大学のピアノ科出身ですが、当時履修していた授業の中で録音実務を学ぶ機会がありましたのでそれが基礎となっています。あと若いときからオーディオがとても好きだったので「良い音」への憧れは常にあったと思います。

大嶽 今回の映画化の依頼は。

武藤 ナクソスレーベル（NAXOSクラシック音楽の専門レコード会社）からの依頼で、映画に伴うピアノ曲をそれぞれ、福岡洸太郎・藤田真央・黒木雪音の





ピアニストの藤田真央氏と一しょに 数馬暁洋氏（左）武藤敏樹氏（中央）

各氏で録音して欲しいということでした。企画については緘口令が敷かれ、口外無用。映画化が決まっても、具体的な内容が封切り前に外部へ漏れたらまずいわけですから。

大嶽 録音技術のこだわりは。

武藤 DSDレコーディング（録音方法の一つ）にこだわりを持っています。私が主宰しているオールアンフィニ・レーベルは全てDSDレコーディングで行い、SACDハイブリッド盤でリリースしています。レコーディング機材は高価で製造コストもかかりますが、ナチュラルで高品位な音質が魅力です。機材も重要ですがそれ以上に重要で本質的な音の良し悪しを決定的に左右する要素として①ホールの響きの品位 ②楽器のクオリティ ③マイクロ

フォンの選定と位置決めがあります。すべて重要な要素でありその中のどれが欠けても良い録音は出来ません。

通常CDの録音は3日間程かけて行いますが、一日目にはしっかりと時間をかけて音決めを行います。適切な楽器の位置を決めて、マイクロフォンの選定を行い、そのマイクをホールのどこに置くの

か細かい調整が必要になります。そこにエンジニアならではのノウハウがあるわけで一番神経を使います。ピアノの録音の場合は、調律師の方が楽器の整音、整調、調律を行います。ピアノのコンディションが良くないといくらマイクのセッティングを頑張っても絶対に良い音では録音出来ませんから、ピアノの録音において調律師の役割は極めて重要と言えます。一日目はほぼピアノとマイクの調整で終わることが多く、早くて当日の夕方から二日目から録音開始ということが多いです。

私は基本的にパーツパーツに分けて細切れで録音するスタイルではなく、曲全体を何回か通して弾いて頂いたうえで、その後プレイバックをアーティストと共にモニタールームで聴きながらやり取りして、音楽的な解釈含めてデイスカッションすることが多いです。よくアーティストの方にお話することが、「弾く耳と聴く耳は違う」ということです。実際アーティストの方が自分の演奏のプレイバックを聴くと大きな発見や驚きが多

いのです。自分が弾いた音と、録音された音の違い、その表現やダイナミックレンジや細かいニュアンスを客観的に聴くという作業を経ることによって理解が深まっています。こうしてアーティスト自身も満足した録音が出来上がっていくのです。

大嶽 録音に入る前の準備は如何ですか。

武藤 そうですね、気持ちよく弾いて頂けるお膳立てが重要です。緊張をほぐさなければいけませんし、事前の打ち合わせやリハーサルは欠かせません。世間話も交えながらだんだんと打ち解けていきその後録音となります。このような経緯を経ることによって録音中のアーティストへのディレクションもスムーズに入られるのです。やはりお互いに信頼がなると良い録音にはならないと思います。

大嶽 今後の目標を聞かせてください

武藤 CDの録音は今後も続けていきますが、コンサートの企画やプロデュースも進めていきたいと思っています。CDはどんなに完成度が高いものが出来たとしても、そのCDを聴くリスナーと現場を共有することは不可能であり、同じタイムラインでその喜びを共有することは出来ません。一方でコンサートはリスナーである観客の反応、拍手や歓声、感動した姿を直接見ることが出来、私自身も同じタイムラインで共に分かち合える喜びがあります。会場のリスナーとその感動を味わえることは何事にも変えがたい喜びです。私たちはこれだけのものを作り上げているという達成感、皆様が喜んでくれているとの充実感が生で伝わってくるのです。今後はCD制作と連動したコンサート企画も、更なる充実を図っていくつもりです。

大嶽 大変有難う御座いました。

インタビューを通じて

映画という総合芸術から見れば、武藤氏は一録音スタッフだろう。しかしながら「蜜蜂と遠雷」小説をテーマに、その担当録音エンジニアとしての責任において素晴らしいクオリティと芸術性を持った仕上がりと感じた。それは音楽の持つ癒し・感情の揺れ、曲の持つ世界を充分現しているからだと思う。間接的に聴く録音は、多くの人に好き勝手に評価され、最後は「生が良い」でお開きとなる。しかしながら、生ばかり聞けないからオーディオが在り、そのオーディオ音源をよりよくするためにオーディオ技術があるわけだ。クラシック音楽を、精度の高いオーディオを介して届けるため、自身の信じる道をひたすら歩む、一人の職人の姿が浮かんできた。インタビューの時間は久々に胸がワクワク。知らない世界を伺う嬉しさで、とても充実した時間でした。今後共クラシックファンに喜び・感動を与える立場として成功をお祈りいたします。

2020年5月30日 大嶽 壽宏

事業に掛ける思い

日本ピアノ調律師協会 事業に掛ける思い

● 日本ピアノ調律師協会 前会長

齊田 健

プロフィール

2014～2019年3期6年、
一般社団法人日本ピアノ調律師協会会長

日本ピアノ調律師協会は、
わが国の音楽文化の発展に寄与
することを目的として、さまざまな
事業を行っています。

4月4日はピアノ調律の日



当協会は、昭和48年に社団法人として設立し、平成24年に一般社団法人へ移行しました。その前身まで含めると90年の歴史になります。ピアノ調律に関する技術の向上及び研究の促進につとめるとともに、ピアノの適切な管理保全についての啓蒙を行い、わが国の音楽文化の進展に寄与することを目的としています。

そのため、一つは、ピアノの調律は協会員にお任せいただけるように協会内において、会員の技術研鑽による更なる技術向上を進めています。

二つ目は、協会外である社会に向かっては、アコース

ティックピアノの魅力、調律の必要性を訴求するために、一般の方々に対して「ピアノ調律の日記念事業」であるコンサート企画を実施。小学校高学年のお子様に対して「12歳のハローワーク」と称した事業を展開中です。協会の自主事業としての研修と事業が2本の柱となります。以下、事業について記載いたします。

1 ピアノ調律の日記念コンサート

1993年 当協会もメンバーである国際ピアノ製造技師調律師協会イギリス・コルチェスター大会で「4月4日はピアノ調律の日」として制定されました。A.D.E.の頭文字が調律の基準音、a(ラの音)と同じであり、A音の周波数が440ヘルツであることに由来しています。

その当時の先輩諸氏が、それをPRするために、毎年当協会各支部が主催して、コンサートなどを行う協会の統一事業である「ピアノ調律の日記念事業」を始めたところと聞き及んでおります。またそれは、略称「よんよんコンサート」とも呼ばれております。さらにバリエーションが増え、地元音大卒業生や地元出身の若い音楽家たちによる演奏会を企画し、次代を担う若手を応援することにつながっています。事業として定着してきたといえるでしょう。



コンサート調律

内容については、当協会のホームページをご覧ください。と幸いです。時々、お会いした方が、以前協会主催のコンサートに出演されたとお聞きしますとご縁を感じとてもうれしく思います。

2 12歳のハローワーク

2011年1月頃、東京の小学校6年の女の子から、当協会に手紙をいただきました。

学校の授業の中で総合学習の時間に「職業について学ぶ」ことが求められており、調律という職業に興味を持っていたので、ゲストティーチャーとして出前授業をしていただ



12歳のハローワーク

けないかとの内容でした。とても可愛らしい字と出前という言葉が印象深く、スタートのきっかけの一つとなりました。せっかくの機会ですから、ピアノの魅力もお伝えできるように演奏者とペアで訪問しました。ピアノ演奏、ピアノ構造講義、調律実体験、質疑応答などであったという間に90分が終了したのを覚えています。また、約90名の生徒が音楽室で体育座りをして熱心に聞いていたのも印象的でした。今では、各支部で年間約50回実施されており、ピアノへの想いの芽が伸びることを期待したいと思います。

他の協会の事業として、2年に1回の楽器フェア、国際ピアノ製造技師調律師協会大会への参画をしております。後者については、昨年ホスト協会として「Piano Piano Piano」と銘打って、ピアノに関する全ての人のための世界大会を主催しました。内外から850余名の出席のもと、手前味噌ながら、成功裏に終了できたのではないかと思っています。

また、一昨年・昨年と映画「羊と鋼の森」「蜜蜂と遠雷」がピアノを後押ししてくれました。

協会の活動は、全てがピアノとお客様に対して利益を提げることができるということが最終的な狙いです。そのため提供できる技術力を研修会等で磨き向上させ、そしてお客様から



研修

客観的に見られる技能検定の実施もオープンの状態を示しています。協会はお客様からいつでも選んでいただける協会の会でありたいのです。

この原稿を執筆しているときは、新型コロナウイルス禍の真ただ中です。

全世界が苦しみ悩んでいる中、三密といえる事業のテーマが相応しかどうかわかりません。終息も見えません。しかし終わりは必ずやってくるかと確信しています。絶望から希望に変わるとき歓喜の歌が流れるでしょう。早く元の生活に戻られることを期待したいものです。



国家検定



成功例 未来のピアニストの演奏を応援するコンサート

日本ピアノ調律師協会 元静岡支部長

宮下 昌己

プロフィール

2004～2007年2期4年、

一般社団法人日本ピアノ調律師協会静岡支部長

2008～2011年2期4年、同協会理事

ヤマハ(株)を定年退職し現在は自営

調律師協会は、北海道から九州に至る十一支部に分かれ、本部が全体統括。年度毎、支部毎、幾つかの事業を展開しています。そんな中、ピアノ調律を記念する(4月4日付近)行事として全国一斉実施企画がスタートしました。しかしながら静岡はメーカー色が濃く、他支部と同時スタートは切れませんでした。今日回想してみますと、ピアノコンサート開催に辺り、何処の社のピアノを使うか、互いのエゴがぶつかっていたようです。そんな中でも、会員にアンケートを取る等、開催にこぎつける地道な活動は継続していました。

他支部に遅れを取ること6年、独自の方向性でスタート。全国では、新人の演奏会や地元の有力レスナーを迎えるの演奏会スタイルが主流でした。その内容も良い訳ですが、静岡流会員とユーザーの繋がりにより強める企画が求められました。自分達が日頃からフィールドとしている顧客の中で、演奏家を目指す人を会員が推薦し発表の場を提

供する。それもプロのピアニストに評価を頂く。日頃から教えを受けている自分の先生だけでなく、プロの演奏家評価である。少しでも上手にさせたい、親御さんをもくすぐる企画である。果してこの企画でどれだけの会員が賛同し、演奏家卵を紹介してくれるだろうか。「プロの演奏家はどなたに。やはり馴染のある地元演奏家だろう」。経費面も考えなければならず。少なくとも10年は続けたい。趣旨にも賛同して頂かないと継続は難しい。この様な議論が重ねられ、浜松出身の仲道祐子先生に依頼しました。

いよいよスタート

会員からの紹介で何とか企画を全う出来る人数が集まりました。何せ、初めての事です。第二回に高校生で出場した今田 篤さん。モーツァルト変奏曲ト短調でこのコンサートに参加下さいました。当時先生から何を指導されたのでしょうか。常に笑みを浮かべ、親しみを持って接してくれる先生は、出場者からも憧れの存在。「先生に指導戴けるなら頑張れる。来年も参加する。」そんな参加者もいました。今田さんはその後イギリス留学をされ、第十回記念コンサートにはゲスト出演をされました。この記念行事企画は、これまでの参加者中、未来の夢に向かって進んでいる人を選び一部で演奏披露。二部は仲道先生の演奏会としました。

2018年浜松ピアノ国際コンクール

4位入賞 今田 篤

会員紹介方式で発表の場を作り、プロの先生評価。勿論、本人の努力なくして入賞は在り得ませんが、そのお手伝いが少し出来た事に感謝いたします。

これからも今田さんに次ぐ演奏家や、ピアノを通じて未来に向け羽ばたける人達を応援して参ります。仲道先生も楽しみにしていてくれ感謝です。

今年第十五回記念コンサート 一部 今田 篤、

二部 仲道祐子コンサートです。師弟の連弾も聴けそうです。今から楽しみにしています。

※残念ながらコロナウィルスの影響下、演奏会は中止となりました。



中止になったコンサートのチラシ



褒章受賞インタビュー

昨年（2019年）秋、黄綬褒章を受賞をされました
勝木晴一さんお迎えし、お話をうかがいました。



勝木 晴一さんプロフィール

2010～2015年3期6年、一般社団法人日本ピアノ調律師協会北陸支部長
2016年から同協会理事、現在に至る。



一般社団法人日本ピアノ調律師協会理事

勝木晴一

大嶽 褒章は令和元年11月ですね。新年号になり記念すべき年の黄綬褒章受賞にお目出度とう御座います。同じ会員としてとても嬉しく感じます。

この褒章は、その道一筋に業務に精励、衆民の模範となるものを表彰対象としています。

勝木 喜びを共に分かち合って頂き有難う御座います。この様な国家的表彰を頂くことに戸惑いも在りますが有難く思います。

この褒章、昨年いきなり受賞したのではありません。順に説明しますと2010年の暮れに厚労省よりピアノ調律が職種認定されました。それから2012年に技能検定試験が始まりスタートする事になりました。2016年には宮下奈都さんの「羊

と鋼の森」が残念ながら直木賞は逃しましたが本屋大賞を受賞し、特に宮下さんは福井市出身ですので福井県では大変な反響でした。ここから本題で、福井県では優秀技能者知事表彰を毎年秋に行っています。労働政策課の人の仕事で、毎年秋の表彰に向け暮れから準備に入ります。来年はどの職種などの人にしようか策定するのです。その小説のせいも、少し前に厚労省より認定された職種で、今まで対象外だった職業が表彰の対象に入ってきました。それが目に付いた様に思います。早速担当者が調律師協会を調べ、福井市在住と判明。多くの書類提出を求められ、運よく秋に優秀技能者知事表彰を受けることになったのです。

大嶽 平成23年からピアノ調律技能検定が国家資格化。「羊と鋼の森」本屋大賞受賞が引き金になっているのですね。何が引き金になるかは別として、その道一筋に魅力を感じます。

勝木 丁度時流に乗った感じですよ。

選考基準は殆んど所属する都道府県知事や団体等の推薦と書類選考で決まるようです。

大嶽 そうは申し上げても、これまでの実績や推薦してくれる人が在っての受賞です。信用出来ない人は周りが支持してくれませんよ。

勝木 一旦知事表彰が決まりますとその内容を厚労省の卓越した技能者表彰現代の名工の審査に上げるのです。表彰者数は平成8年より150名に拡大された様で、主に都道府県知事の推薦になります。毎年450名前後の申請があるそうです。

大嶽 全国となりますとそうですね。

勝木 その卓越した技能者表彰を受けますと、次はその流れで再び黄綬褒章の対象者として申請するようです。叙勲と褒章は春と秋の年に二回ありまして私は名工受章から一年後に褒章を受けることになりました。おおまかな流

れは以上のようなようです。最初にピアノ調律と言う職業に着目してくださった福井県の労働政策課の人の手腕かと思えます。私自身がその制度を知って申し込みをした訳では無く、県の人から打診され流れに乗った次第です。提出書類の煩雑さに嫌気がさしたこともありましたが、今では県の担当者に感謝しています。私は大学受験に一度失敗し、一浪して入った学校は一年で中退。楽器店に営業職で就職したのですが、ずっとコンプレックスを持っていました。途中営業から調律に転向するのですが、数年間は営業と兼務。調律に専念するようになったのは、30年ほど前からです。当時は自分ながら下手な調律だったと思います。その反発から、上手な先輩みたいになりたいとメーカーのGP研修に毎年一か月缶詰状態で参加していました。ヤマハに育ち、国内で仕事する分はまったく問題ありませんでした。その中で調律師協会に出会い、他のメーカー教育を受け始めます。教育を受ける都度、自らの技術

褒章受賞インタビュー

力の無さを自覚実感しました。出来ないことがあると悔しいし、それがモチベーションになり今につながったと思います。

大嶽 「羊と鋼の森」ストーリーそのものですね。

ところでだれしも、ご褒美は受けたいものです。ピアノ調律をこれから学ぼうと言う後輩達に今度の受賞で何かメッセージをお願いします。

勝木 そうですね私の経験で宜しければですが、先に述べましたように、最初の技術習得が短期養成だけでした。現場での技術不足を感じながらもどうしようもなく、10年近く我流で回り道をしました。その後、技術習得の機会に恵まれ、徐々にステップアップすることが出来ました。ですので、私自身が色んな所に身を置き（知見を広め交流の機会を増やす）、目の前の分からない事等を意識して解消すること、おざなりにしないことを心がけています。国内のメーカー研修や海外のメー

カー研修でも常に幾つか疑問、質問を用意して臨むことも大事です。受け身の研修ではなく、不足分を補う姿勢でしようか。勉強等で分からない事が解消されますとすっきりして気持ち良いですよ。技術もそれと同じです。また時には身銭を切って、缶詰め状態で集中力を高めて研修を受けると身に付くのも早いと思います。

次に、私が授章しました知事表彰、現代の名工、黄綬褒章といずれの審査基準も、以下が満たされていれば良いようです。

- ① 現役であること
- ② 社会貢献していること
- ③ 若手技術者育成と指導に携わっていることですね。

まじめに一步一步進みますと、分からない事がたくさん出てきます。そこを如何に自分の知識としてマスターするかが重要です。そのためには、書物もあるでしょうし、勉強会もあります。メーカーにだって勉強会はあるでしょう。又、同業者仲間との交流で知らな

い事を聞いても良いでしょう。解決しなくても、何かヒントは得られるはず。一緒に考えることも重要です。

大嶽 なるほど。最後に受賞されての感想は如何ですか。

勝木 戸惑っているというのが本音です。最初にも述べましたが、狙って応募したわけでもありません。技術的にも私より上手な人は沢山居ます。人間的に魅力ある人や、社会貢献・協会の為に尽力した人も沢山知っています。褒賞を受け、気恥ずかしさがあります。**大嶽** お忙しい中大変有難う御座いました。

聞き手 大嶽壽宏

2012～2015年2期4年、
一般社団法人日本ピアノ調律師協会静岡支部長
2016～2019年度、同協会理事（広報担当）
（株）河合楽器製作所勤務

歴史的ピアノ探訪

その2

伊東基貴

(日本ピアノ調律師協会／中部支部)

安城高等女学校旧蔵「南吉ピアノ」



新美南吉(1913～1943)

という童話作家をご存知でしょうか。「ごんぎつね」や

「おぢいさんのランプ」「デ
ンデンムシノカナシミ」な
ど、読んだひとの心を照ら
す多くの名作を残し、時代
を超えて今も読み継がれて

います。その南吉は、愛知県半田市に生まれ、東京外語学校で学んだのちに愛知県安城高等女学校の教員をしながら創作を続けていました。

愛知県安城市は、愛知県のほぼ中央に位置し、名古屋からはJR東海道線の快速で30分ならず、隣接する豊田市には世界的産業トヨタ自動車があります。むかしから農業がさかんで、日本のデンマークと呼ばれていました。その土地で、南吉は短い30年間の生涯の後半を、教員生活と児童文学作家として送りました。

安城高等女学校は、戦後の学制改革により安城高校とされ現在は校



舎も残ってはいませんが、かつての校内の講堂で備品として弾かれていた旧蔵ピアノ（ロシアのサンクトペテルブルクにあったベッカー社製1908年）が、2013年に個人宅の納屋で保存されていることが分かり、安城市が譲り受け修復しました。「講堂にピアノなりやみ秋の薔薇」という南吉の句に詠まれたピアノであることから、愛称を「南吉ピアノ」と名付けられ、現在は安城中心市街地拠点施設アンフォールに所蔵されています。

保存されてはいたものの、状態の劣化は相当以上にひどく、歴史的ピアノとしての再生をいろいろ打診してみたところ、困難ではないかと思われました。そんな中（一社）日本ピアノ調律師協会会員で栃木県真岡市に工房を持つ、ピアノ修復エキスパート小野哲さんが引き受けられ、2年の期間をかけて見事に修復することができました。アンフォールに所蔵されてからは、通常は玄関エントランスに展示され、年1、2回は1階ホールでの催しに使用されています。

その催しの一部を企画しているピアニスト加藤希史さんは、ご祖母が安城高等女学校での南吉の教え子であった縁もさることながら、南吉の日記に着目し、そこに見られる音楽関連記述を元に自らの音楽家としてのスタンスから、「南吉ピアノ」という歴史的ピアノを起点として、そこから派生する南吉の業績を辿るころみを、毎回プロデュースされています。

南吉ピアノと政吉ヴァイオリンによるコンサート

新美南吉とヴァイオリンの音楽を残された日記を手がかりに、2020年2月11日に開催されました。

- ・ピアノ加藤希史さん、ヴァイオリンとピオラ江頭摩耶さん
- ・特別講師に愛知県立芸術大学教授の井上さつきさん

名古屋市で創業し、今や普及型ヴァイオリンの量産化により世界的評価を得ている、鈴木ヴァイオリン製造株式会社の創始者、鈴木政吉の1929年製高級手工ヴァイオリン（愛知県立芸術大学所蔵）と「南吉ピアノ」によるレクチャーコンサートです。





新美南吉がのこした日記の断片をもとに、鈴木ヴァイオリンとの「もしかすると邂逅（カイクウ）があつたのでは」と思わせる接点を読み解き、そのころ南吉の気を引いたベートーヴェン「クロイツェルソナタ」など数々の白熱した演奏に満場の客席は沸きました。また、日本の洋楽器生産近代史の調査研究により、数々の著書を上梓されている、井上さつきさんの講演による検証も、聴くものに説得力を与えました。最後には、「南吉ピアノ」の修復にあたられた小野哲さんも登壇され、バラエティーに富んだ内容のレクチャーコンサートでした。

かつて安城市で、新美南吉が残した童話がそうであったように、けっして声高に訴えるものではないけれど、ひとの心へ確実に刻む文化への想いが感じられます。百年以上の時空を超えたピアノが演奏され、その文化としての実証の場を、そこにいる全員が共有している催しだと思いました。



（注）安城高等女学校旧蔵「南吉ピアノ」こと、「Becker」を冠したベッカー社（サンクトペテルブルク）1908年製ピアノは、修復直後に2016年楽器フェア（東京ビッグサイト）日本ピアノ調律師協会ブースでも展示されました。修復の模様写真パネルやデモ演奏で、多くの来場者の関心を集めました。URL: onopiano.com/becker-1



海外音楽事情 ピアノと調律師

山本有宗
(ドイツ在住会員)

ピアニストは毎回違うホール・舞台のピアノがどの様な状態であるか、音響を含め当日直前まで判らない。更に演奏する楽器を自分自身で調整出来ない不安は、容易に察することが出来る。

一流ピアニストとなれば毎週コンサートがあり、週に4〜5回のコンサートという事も珍しく無い。移動による時差や気候、体の自己管理も重要になってくる。彼らのスケジュールやプログラムを見ると、肉体的にも大変な職業である事がわかる。

調律師はピアニストの好みを探り、限られた時間の中でピアノを調整しピアニストに常に寄り添いながら、良い演奏会となるよう努力する。リラックスして本番に臨める様に、メンタルや体調を含めて配慮するのも大事な仕事の一つである。時には、オーケストラとの音のバランスを取り、またピアノ以外の色々なハプニングにも対応する。

ピアニストによっては音の好みを色々な風景に例えたりワインやチーズ、ケーキ、チョコレート迄持参し「今日はこの様な音でお願いします」と表現する人もいる。リハーサルでは何も仰らない方が多いが、弾き方や表情、背中から発する何かで伝えたいことや好みを示す。ピアノ自体にも様々な個性があり、調律師がそれを無視して強引に調整すると、言うことを聞いてくれず上手くないかない。

ヨーロッパでは多くの著名ピアノメーカーがあるにも関わらず、調律の重要性についてあまり理解されていない。調整時間や環境が事前に十分確約されている事はまずありえないし、予想外なことも多いのでいつでも仕事を終了できるようにしておく必要がある。事前に調整時間を約束してもホールに行くと「そんな話は聞いていないし調整時間は無い」と追い返される事が多い。著名な音楽祭の一流音楽家の為であっても調整時間は30〜60分という事もあるし、調律師は契約内容に従っているの、コンサート本番に立ち会わずに帰る事も多い。



イタリアやスペインでは海岸沿いの風光明媚な場所での野外コンサートが多くピアノ調律師にとっては大変過酷な環境である。調整時に気を使ってピアノ上にテントを張ってくれる事もあるが、4度前後後上がる真夏には意味を成さない。華やかな舞台とは裏腹に、舞台裏ではピアノ自体が熱を持ち、海から来る潮風でピアノが暴れ動く。一流演奏家が集うVerbier Festivalはスイスの山岳・スキーリゾートとして有名なエリアで山頂に特設会場を作りコンサートをしている。配信映像はマイクで

拾っているが、実際の響きはドライであまり良くない。更に山の天気は変わりやすく、突然の雷雨が来ると両音で本番演奏を中断せざるを得ない。さすがに天気だけはコントロールできず、舞台裏では色々な苦労がある。

有名なホールでは週末になると、一日3〜4回公演が有りフル回転している。工匠専用のピアノを外部から持ち込む場合、調整時間はほとんどもらえない。時には舞台下の楽器庫で、頭上で行われている一流演奏家のマチネ（昼公演）を聴きながら漏れない程度の音で調整をするが、ある種とても贅沢なことかもしれない。

世界中のピアニストたちは皆口を揃えて、日本での演奏家へのおもてなし、各環境、スケジュールの正確さの素晴らしさを称賛するが、これは調律師にとっても同様で、その気持ちが良い判る。

リハーサル後、「鍵盤を拭かないで下さい」というピアニストは多く、絶対に拭かないよう気を付ける。汗の色や質も、人それぞれ様々であり、手が乾燥する冬はハンドクリームを指先になじませて弾く巨匠も



いる。鍵盤上に汗をしたらたり落とす演奏家もいるが、なぜか滑らさずきちんと弾きこなす。

パリ、ベルリン、エッセン、ルクセンブルク、ケルン、ワルシャワ、アムステルダム、ウィーン、バルセロナ、ローマ、ハンブルク、ブカレスト他、個性の違う素晴らしい音響ホールが書き切れないほどある。ホール自体の素晴らしい響きに何度も助けられた経験により、調整時間が少なくても舞台上でピアノ設置位置や脚のキャスター向き等は必ず確認している。ホール専属調律師に聞くと、一番響きが良いピアノポジションを知っていて、更にとこの観客席が一番良く聴こえるかについても彼らが理解している。本番で一番響きの良い席に座っているのは、調律師が多かったりする。

街中で路上演奏をよく見かけるが、彼らもまた響きの良い場所を熟知している。屋外にも関わらず、時に一流ホールに負けない素晴らしい響きの中で気持ち良く演奏している事がある。乾いた空気、石造りの建物、色々な要因が重なって、そこに素晴らしい野外ホールが出来上がり、それをうまく

く利用し通りがかりの人々を楽しませている。

特にイタリア・フランス・東欧各国には、古く美しいテアトロ（劇場）が多く残っている。装飾はとも華やかで歴史を感じさせるが、舞台は大きく傾斜し、必ずしもピアノソロやコンチェルトには向かない非常にドライな響きのホールもある。当然、演奏家は歌い易く、程好い残響ホールを好む。音の細かなニュアンス全てが観客席に聞こえてしまう残響のほぼ無いホールは、ある種演奏家にとっては、丸裸にされてしまう究極の環境であるが逆にその環境を好み、繊細で緻密な演奏を楽しみながら弾く事が出来る巨匠もいる。時には演奏家が舞台上上がった瞬間、ホールの響きとピアノの相性を把握し、急遽それにぴったり合ったプログラムに変えてしまう事もある。ホールとその響きが毎日違っても「指先にも耳があるから、各観客席にどのくらい音が綺麗に届くのか瞬時に判断できる」という巨匠もいる。彼らの多くは何も口には出さないが、五感六感で全てを理解し、そこにある環境に全身を委ねて最高の演奏をする。こ

れらは研ぎ澄まされた勘と感性、長年の経験とから得る技であろう。調律師として舞台袖から演奏を聴いていても、毎回違った色、切なさ、悲しみや苦しみ、喜び、遊び心、希望が感じられ、同じプログラムであっても感動させられる。

華やかな舞台からは想像できないが、巨匠の多くは、若々しく常に謙虚で未だにひたすら学ぶ姿勢を貫き、年齢と向き合い想像を絶する努力をしている方が多い。そして自宅では年齢相応に見えるマエストロ達も、舞台上上がる瞬間にプロとして、顔つきが変わり背筋も伸び、手の震えも止まり別人になる。また音楽だけでなく人間的にも素敵な方々が多くその魅力に自然と引き込まれてしまう。未だに演奏家から色々学ぶ毎日で彼らに深い尊敬の念を抱いている。

素晴らしい演奏が終わった後のホテルまでの帰り道はとても重いはずの工具鞆がなぜか軽く感じられる。唯一調律師がホッとできる瞬間である。

ピアノ部品総数は約10,000個、重さは約500kgある。演奏家よりも常

に一足先に次の地へ移動し楽器を温め、あてもない、こうでもないと変化に合わせた調整を長くしていると、ヴァイオリンという小さな楽器に嫉妬の念を抱いてしまう。自分で持ち運びと調弦が出来、とても華やかに歌いあの小さなボディから想像できないほどの力強さと迫力もある。自分専用のピアノを持ち運び、専属調律師を付帯させながら世界各地で演奏会ができるピアニストは世界でもほんの一握りである。ヴァイオリンという小さくて美しく、華麗且つ力強い素晴らしい楽器に嫉妬している調律師は私だけであろうか？ 今度同業者の方々にそっと聞いてみたい。そして引退後には、あの憧れの楽器、ヴァイオリンに挑戦したいとひそかに思っている。

現在、新型コロナウイルスにより世の中から音楽が消えかけ、事業者だけでなく芸術家や音楽家は仕事と収入を失い、生活基盤が崩壊しかけている。勿論、安全対策は命が掛かっており第一優先でコンサート等は慎重に対処し、リスクを絶対回避すべきである。しかし同時に、この想像も出来なかった先の見えない不安な時期こそ精神的

な健康を保つ事が大切で、その為にも文化の保護は最優先事項の一つである。専門性のある一流の技術を習得し、それを維持向上させるために自ら莫大な時間と努力、自己資金を投じているにも関わらずこういった事態になるとフリーランスの演奏家は弱い立場の個人事業主となってしまう。政府による収入減少等に対する明確な補償、早急な救済策が必要で、一日も早く事態が終息し、日常生活に音楽が戻ってくる事を心から願っている。(2020年3月記)



浜松から周先生へ

チヨウ



チヨウ グアンレン（周広仁）先生、今ごろはどうしておられるでしょうか。遠くを見つめる静かな眼差し、明るく^{たお}やかなお声、そのお声が途絶えてからもう何

田中良司

（日本ピアノ調律師協会 国際局参与）

年も経ちます。「浜松国際ピアノコンクール」の審査員としてご来日されてから月日の経過は速いものです。先生を浜松に何度もお招きした審査委員長の中村絃子^{コヒシジツ}さんも旅立たれました。会場内の珈琲店では絃子女士との交流の様子も（中国語で）親しくうかがいました。先生はお生まれが1928年ですから今年で92歳を迎えられます。お住まいの北京はいかがですか。出生の地とお聞きしたドイツ・ハノーバーも今は冠状病毒（コロナウイルス）の感染拡大で大変のようです。先生からの最新の電子メール、それも数年前のものですが、ご体調不良で入院されたとうかがった後は、返メールもいただけなくなりました。

中国の音楽界やピアノ界、さらにはピアノ製造業界のプレステージを近年の高みに躍進させたチヨウ先生のご貢献に異論を唱える人はいないでしょう。輝かしいご経

歴に加え、承知するところでは、現在では中央音楽学院の終身教授とのことですが、音院にお出向きになることは今でもあるのでしょうか。半世紀以上も前の1951年、第3回世界ユースフェスティバル国際ピアノコンクールで第3位。1956年の第1回シューマン国際ピアノコンクール（東ドイツ）では優勝されて、中国人として最初の外国でのコンクール優勝の栄冠を獲得されました。それ以来、国内では中央音院の主任教授のほか中国国際ピアノコンクールの創設、さらには世界の20余りの国際ピアノコンクールの審査員を勤められ、一方、教育活動でもアメリカの30に近い大学から招聘され公演や講義活動を展開されるなど、ピアノニストまた音楽教育家として八面六臂のご活躍をされてきました。このことに私が多弁を弄することさえ^{はばか}憚れる思いです。

チヨウ先生が国際コンクール審査員と

して来訪された浜松では、私は地元のパイプオルガンメーカーに所属するピアノ調律師としてご厚誼をいただきました。先生はピアノ技術にも精通され、それを物語るエピソードを度々耳にしています。その少し前、緊急な所用で中央音楽学院を訪問した際、はからずもそこで目にしたのは、ドイツの著名なピアノメーカーとの技術交流の現場でした。企業秘密などの言葉が叫ばれ始めたところ、私は一瞬見てはいけないものを見てしまった思いでした。先生はそのプロジェクトでも中枢におられました。

チョウ先生、私たちの初対面の当時のことをまだご記憶でしょうか。1995年のことです。場所は仙台市でした。「第2回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール」が仙台イズミティ21ホールで開催され、多数のコンテストに交じって中国からラン・ランが出場しました。先生はラン・ランの父君と共にいわば後見役をお勤めでした。コンクールは見事にラン・ランの優勝で幕を閉じましたが、その間、先生との歓談で浜松のピアノ工場を見

学したいとお気持ちをお聞き、仙台でのご活動終了後は予定外だった浜松に3-4日も滞在なされました。浜松への特別な親近感はこのころからでしょうか。そして5年後の2000年には、「第4回 浜松国際ピアノコンクール」の審査員として再び浜松の人となるのです。ピアノコンクール期間中のある一日、来日に同行された天津音楽学院の劉碩勇教授も一緒に、富士五湖巡りなどはいかがをお訊ねすると、審査員のお仲間でもあったジュリアード音楽院のジュローム・ローエンタール教授もぜひお誘いしたいと望まれて、マイカーでの4人の旅となりました。アクトオークラホテルを早朝に出発し富士山二合目を過ぎ、山中湖を後にして間もなく、先生も驚かされていましたね。ローエンタール先生は実はピアノ音楽とは別に、日本人作家、三島由紀夫の本国アメリカでもよく知られた研究家でもありました。そのまま国道に隣接する「三島由紀夫文学館」の門をくぐると、資料の収集や展示品を細にわたって視察されるなど、2時間近くも楽しくまた学びのある有意義な時を過ごしました。

思えば、体調の変化をお知らせくださった先生の最新メールでは、天津音院の劉碩勇先生のご病气にも触れていました。私の所属する協会の風の便りに、劉先生が最近亡くなられたことが伝えられました。「もはや二人とも年寄そのもの」との先生のユーモアをもちや静かに受け止めるほかありません。このところの社会の動向や生活環境の中では、当面、冠状ウイルスの広がりに十分ご注意をなされること、そしてまだまだ中国の音楽界やピアノ界、さらにはピアノ業界の証人であり続けられることを心から願うばかりです。



右から2人目はジュローム・ローエンタール教授



音楽教室のコンクール活用法

杉山 園実
(音楽教室講師)

音楽教室の講師になって20年以上になりますが、その間に取り巻く状況は随分変わった印象があります。まずは音楽を専門にしようという生徒がかなり減ったこと。私の母校、国立音楽大学ピアノ科は卒業して10年経たない内に募集人数が1/4に減り衝撃を受けました。また私が子供の頃は上達のために先生に厳しくされるのは当たり前、友人とよく”どれだけ先生がコワかったか自慢”をしたものでしたが(もちろん恩師のことは大尊敬しています!)、今は繊細な子が増えたこともあり、よりメンタル面をケアしつつ褒めて伸ばす指導が主流になってきています。

価値観が多様化し、音楽教室に通う目的や目標も様々な中、指導者としてはどの生徒にもできるだけピアノを弾く楽しさ、上達する喜び、音楽の奥深さを感じてほしいと思っています。そのために有効活用したいイベントの一つがコンクールです。

演奏力を上げるためには、緊張するステージでの経験が欠かせません。子供のコンクールは幼児から挑戦するチャンスがありますが、幼い内は緊張を知らないまま出

場していることもよく見られます。それはまだ欲がなく、演奏が自分の中でだけ完結しているからというところもあるでしょう。しかし、自分の演奏がどのように届き、どう評価されるかという外からの視点、そして同じ年代の他の生徒さんがどのように表現しているかを聴くことで、それが大きな刺激となり、子供たちの意識はどんどん変わっていきます。初めは勧められるままに何となく出場していた生徒が、次第に「次はもっと良い演奏にしよう」という向上心を自発的に持つてくれるのは、指導者として大きな喜びです。

ただ、挑戦するに当たっては目標をどこに置くかということは気をつけなければなりません。コンクールはその性質上どうしても競争心を煽られるところがあります。それが上達に繋がる面はもちろんありますが、長い目で見えた時、賞そのものを目標にするのは少々危険でもあります。例えば、読譜や技術面で時間がかかる生徒が賞を目指すとなった場合、長期間課題曲のみに集中することになります。読譜や基礎力アップには沢山の曲に触れる必要が

あることを考えるとそれは本末転倒です。その時期に必要な基礎力をつけながらその時できる完成度を目指す方が、すぐに結果は出なくても後々実を結ぶことが多いものです。

それは楽器の鳴らし方にも言えます。子供の内は身体や手の大きさの問題もあり、広いホールに充分に響く音を出すのは大変なことです。その時に無理に鳴らそうとして叩く弾き方になってしまうと、その先も悪い癖として残り、直すのが難しくなってしまう。最初は細くても良いから無理のないタッチ、音量よりも響きや伸びを意識した音作りを目指しています。

賞そのものを目標にしないということでは一つ苦い思い出があります。毎年出場し続け、いつも予選通過一歩手前の入選だった生徒。音が硬いという課題がありました。それが、それも年々改善し、小6の時は音楽的にも今までで一番良いものが本番で出せたという手応えがありました。ところがまたも入選。努力の成果は確実に出ていたにもかかわらず、欲しい結果ではなかったことに心が折れ、結局その後ピアノを辞め

てしまいました。説得し切れなかったという悔いが残り、またコンクールに挑戦する本質的な意義についても考えさせられる一件でした。

コンクールは上手に利用すれば、音楽的な面だけでなく、一つのことを追求しやり遂げる根気、壁を乗り越えた時の達成感と自信など、人として大切なことが沢山学べる場です。子供たちには喜びや悔しさなどいろいろな経験を糧に、精神的にもしなやかさ、逞しさを身につけていってほしいです。それは将来、ピアノに限らず様々な面で役に立つはずで。

2020年はコロナで生活が一変する年となりましたが、私自身は長い自粛生活の中で、ピアノがあつたことで随分精神的に救われました。生徒さんにとってもピアノがそんな存在になってくれたらと願っています。音楽の素晴らしさを生徒さんと共有できるように、これからも日々研鑽を積んでいきたいと思えます。

思わぬ出来事

矢作クノツプフ有香
(ドイツ在住会員)



コンサート



表彰状

今年の2月初めに私のかわいいお客さんから1通のLINEメッセージが届きました。

彼女の名前は井田夏姫ちゃん。

2016年にお父様の仕事のご都合で日本からフランクフルトに越してきた、幼い頃からピアノレッスンに勤しむ何よりもピアノを弾く事が好きな少女。こちらではドイツに活動拠点を置くピアニスト江尻南美さんに師事し、自身が希望して『厳しいレッスン』という道を歩む事になったのですが…。

「ご無沙汰しております。遅くなりましたがご報告です。先週 Jugend musiziert があり25点で地区大会を通過することができました。これからも調律宜しくお願います」と。

ユージェント ムジツィエールト Jugend musiziert とはドイツの青少年の為の音楽コンクールで、音楽家を目指す若者の登竜门的な存在。評価システムは25点満点。23点〜25点評価を得ると州大会、更には全国大会へ進めます。彼女は2003、2004年生まれ枠、移転したのでヘッセン州の州都ヴイスバーデン

地区での参加でした。地区大会後、通過した受賞者コンサートが開かれるのですが、嬉しい事にそこに招待してくれたのです。恥ずかしがり屋で調律の際もあまり弾いてくれないのに！

その日の彼女の演奏は地区大会でも弾いた3曲の中の1曲 Rodion Konstantinowisch Schtschedrin, Basso ostinato 2, Allegro assai sempre molto ritmico。彼女の演奏は鯉の滝登りの如く、曲を自分のものにしていて伸びやかそのもの。その上達ぶりに吃驚したと共に、私も彼女に的確な技術を提供しなくてはと身が引き締まりました。実は彼女、2018年の同コンクールでフランクフルト在住の Braun Marie Laetitia ちゃん (チューロ) とのデュオ (Beethoven Cello Sonata No4 in cmoll, Op.102, Schumann Fantasiestücke Op.73) の参加で全国大会25点満点1位を受賞しているのです。それも糧となり、また、舞台での演奏への調整がここ最近出来るようになってきて、今回も全国大会を見据えていたとの事。

14歳〜18歳の受賞者コンサートといえ

ども開演は19時。終演後にはホワイエにパンや飲み物が振舞われ歓談の場が設けられます。私も井田ご家族とワインで乾杯している、演奏した正装の男の子がやって来て夏姫ちゃんにご挨拶。「上手だったね。どこに住んでいるの？」等。なんとも微笑ましい光景でした。次に正装した初老の紳士が来て、彼女の演奏に興味を持ってくださった様子で彼女に話しかけて下さりました。子供といえども自分の意見を言えないといけないここドイツ。大人が代返するわけにはいきません。彼のドイツ語を通訳し返答は彼女に任せました。彼女は習ったドイツ語で一生涯懸命対応。突然の事にこの日1番の緊張だったようです。後に判明したのですがその紳士は同コンクールの地区スポンサー、ライオンズクラブの方だったようで、後日、Jugend musiziert とは別に彼らからの特別賞 Drosihn-Förderpreis とその受賞者コンサートでの演奏招集が彼女の元に届いたのです！

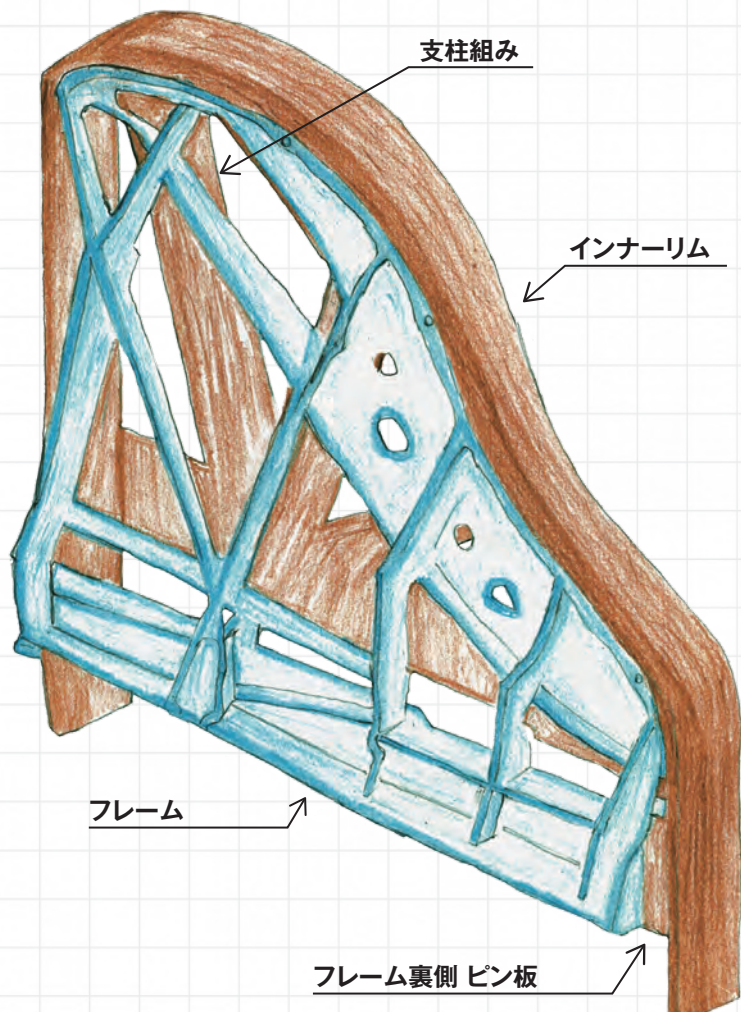
しかしCovid-19が3月上旬からドイツにも徐々に忍び寄り、残念乍らそのコンサートの中止、祈る思いで開催を願っていた Jugend

musiziert からも開催中止の連絡が届きました。全ての州大会参加資格者の躍進する機会が失われたのです。

フランクフルト在住日本人家庭N家のお子さん2人も州大会に進む事が決まっていました。技術的にも精神的にもコンクールに焦点を当ててきたのでご家族で憔悴されたそうです。また多くの指導者からも落胆の胸の内を明かされました。

ただ感心するのはCovid-19の規制緩和が始まった頃、Jugend musiziert が地区大会通過者の為に新たな演奏の場を設ける案内を届けたそうです。また、先のライオンズクラブから夏姫ちゃんには、ご両親宛の賛辞のお手紙、賞状、賞金150€と賞についての冊子が送られてきたそうです。共に主催側の指針と誠意が伝わってきます。目標を定めて日々の練習に取組んでいく音楽家の卵さん達は心折れることなく、この切ない思いをも表現のレパートリーとして演奏の幅を広げてくれれば…と願うばかりです。

弦張力とその保持の仕組み



2号では発音のメカニズムを説明しました。今回は、弦全体の張力を如何に保持しているか説明します。

ピアノの弦はメーカーや機種（大きさ）により少しの違いは在りますが、大よそ230本張られています。低音弦で40〜50本、残り180〜190本が中音〜高音弦です。ハンマーは鍵盤相当数（大方のピアノは88鍵）の88個在りますが、場所によりハンマーが弦を打つ本数は異なっています。

ハンマー一個に付き、低音で1〜2本、中音・高音で3本、この違いは音量から来るものです。音程は弦の長さや張力で決められます。低い音は弦が長くなりますが、限りがありそれをカバーする為、重さでコントロールしています。芯（伸）線に銅線を巻き、太く重量を増して低音感を醸し出しています。最低音で外径約6〜7mm、中音から銅線巻きは一部でしか見られず、ほとんどが芯線。中音

部で約1mmの太さ、徐々に細くなり高音へ続く。

最高音弦長は50mm程で太さは約0.8mm。大型ピアノでもこの長さはほぼ変わりません。太くなりすぎると、しなやかさが失せ振動し難くなってしまう事は言を俟たない。この様な弦が張られています。

太鼓の革をパンパンに張ると音が大きくなると同様、弦張力についても1本辺り70〜90kgで張られ、トータル18〜20tにもなる。ピン板（チューニングピンが打ち込まれている処）に打ち込まれたピンは金属フレームヒッチピンに掛けられ張弦される。この張力で変形し難い造りは、当然ながら家の大黒柱にあたる柱（支柱）と外枠（リム）が準備され、更に金属（フレーム）で補強されている。柱や枠は強さを備えただけでなく、音の響きも考えなくてはならず、木材選びはその楽器の根幹をなす。独特の形状を持つグランドピアノは、曲面もあり独特の曲げの技術はメーカーにより異なる。堅木を曲げるとなると難しさも伴う。濁りの無い美しい音を求める材料選びや、力強い音を求めての選択はメーカー設計者に委ねられ、良い響きがかう木

材が選ばれる。

この様な造りを以ってしても、温度・湿度変化による調律変化は対応し切れていない。構成されている金属弦や木材の伸び縮みが大きく影響し、調律の変化に繋がっている。

たとえば、室内エアコンの風が弦に直接当たっているとしよう。その弦は明らかに変化し、他とのバランスを崩す。ここに至っては全体の変化というより個々の変化と言わざるを得ない。冬の寒い部屋に暖房なしで放置されたピアノは、フレームが冷え切りそのピッチは大きく変化している。又、縦型ピアノではキヤスター接地面が置かれる場所によりズレル事がある。4点均等接地であった物が、何らかの要因でズレルと、個体がひずみ音程も変る。大きな凶体でありながら、事程左様に敏感である。よって、ピアノを移動した時、調律を見直さなければならぬ所以である。ピアノを気持ちよく弾いて頂く為には、定期的なケアが肝要。調律メンテナンスした前後で音を比べて下さい。その違いは歴然としています。気持ちよく弾ける楽器に変わっています。

音の扉 4号 会員コーナー原稿募集

音の扉3号お読み頂き誠にありがとうございました。更に会員皆様に愛される冊子とする為に、本号より会員コーナーを新設しました。次号につきましても同様といたします。以下内容にて募集いたします。

応募要項

- ・テーマは「思わぬ出来事」調律師ならではの失敗談等をテーマに沿って300字程度にまとめてください。
- ・「思い出の写真」写真と共にコメント（1000字以内）をまとめてお寄せください。応募は原稿用紙・データ他、何でも構いません。

あて先

住所・氏名・電話番号・会員番号記入の上ごちらのあて先へお送りください。
〒101-0002 東京都千代田区外神田
2-18-21 楽器会館5階
一般社団法人日本ピアノ調律師協会「音の扉」宛
TEL: 03-3225-1389
FAX: 03-3225-1924
E-mail: info@jpta.org

注意事項

- 1) お寄せ頂いた写真は返却いたしません。大事な写真は複製を投稿ください。
- 2) 投稿頂きましても採用されない場合がございます。ご容赦ください。
- 3) 投稿頂きまます作品は自作未発表のもののみとなります。
- 4) 被写体（人物等）については事前に使用許諾・承認を得た上応募ください。
- 5) 誌面の制約その他の事情により、応募作品の一部のみの掲載、その他必要な改変をさせて頂く場合があります。



思わぬ出来事&思い出の写真

今号より日本ピアノ調律師協会会員のコーナーを新設致しました。
調律師ならではの体験談などをお寄せいただいています。

思わぬ出来事

信越支部 清水典子 私は調律師としての経験は少ないですが、ピアノの仕事は様々な経験が出来る毎日楽しく時間を送っています。お客様とのコミュニケーションを大切にするために、「何か問題が発生したらご連絡をください。」と声掛けをしています。＊スティックや断線発生は起こり得る、顧客にも判り易い事案です。

ある時、動転した様子が伺えるお客様からの電話を頂戴しました。鍵盤蓋（グランドピアノノクタープ）の隙間にショートケーキが滑り落ちてしまったと：おるおるしておられました。今から伺いますと電話を切り訪問。鍵盤蓋を外し、鍵盤奥まで掃除を済ませ、事なきを得ました。かれこれ15年前の話ですが、毎回訪問時にはその話題で盛り上がりがあります。振り返ってみますと、これは稀なケースだったと思いますが、ピアノの外装を外す際、時に恐怖を感じる事ありませんか。中に色々な物が入っていて、後に笑い話にもなる様な経験談お持ちではないですか。中

※スティック：ピアノの鍵盤やアクションは支点を中心に円運動をしています。その運動が何らかの原因でさえぎられる現象の総称。

思い出の写真

信越支部 小林忠義 北海道一周ツーリング。国後島を遠目に知床半島を快走中、キタキツネに出会った興奮も束の間、エゾ鹿が宅地を歩いて



ているのに驚き、峠道ではヒグマの親子との遭遇に驚愕：世界自然遺産に感動しつつ、宗谷岬を経て利尻島まで渡りました。

静岡支部 石田智子 バリ島で滞在したホテルに「バリ舞踊1時間レッスン」という楽しそうなメニュー。♪ 煌びやかなレゴ



ンに合わせて必死に真似して踊りましたが、10分で膝がガクガクしました（笑）

静岡支部 小野純一 一瞬何が起こったのかと??? 私がロンドンに赴任しているときのことですから、もう30年以上前の話です。あるお客さんのところに伺って、さあ調律を始めましょうと大屋根を開けたら一瞬のうちに大屋根が左側に滑り落ちたのです。そして次の瞬間ガシャーンという大きな音が：

一瞬何が起こったのか分かりませんでした。滑り落ちた大屋根は左側に置いてあるサイドボードにぶつかって止まっていました。通常は起こるはずのないことが起こったのは大屋根を止めている角蝶番のL字金具が外れていたのです。そのL字金具は2本揃えてフレームの上に置いてありました。ピアノを運んできた運送屋がL字金具を差し込むのを忘れたのが原因ですが、今でも忘れられないですね。あの大きなガシャーンという音は。

北海道支部 山脇健次 未だに出口の見えないコロナ騒動、私も二ヶ月半の自粛を行いました。調律師になって40余年、最初は全てを受け入れ長い休息を楽しもうと案に構えましたが、閉じ籠りの生活で多分に漏れずコロナ太りにコロナばけ。ましてや普段は買わないTVショッピング。購入した健康器買は三日坊主に、時間が無いのを理由にしないものは、時間が有ってもしないこととやっとなり付きました。ああ、最初から妻の言う事をきいていれば…

六月に入り自粛が緩和され、家の掃除と断捨離に慣れた頃、仕事を再開、久々の顧客宅での調律は仕事をさせていただける喜びと感謝の念を、心から強く感じました。今まで当たり前と思っていた日常が、こんなにも素晴らしい事だったのだと、これが私の思わぬ出来事です。



日本ピアノ調律師協会 **オリジナル**
**アンティークピアノ
 カレンダー**

貴重なアンティークピアノの写真を解説付きで掲載。
 美しいピアノと共に過ごす12ヵ月はいかがですか？

JPTA2021 CALENDER

- ・A4判 カラー 全26ページ(裏表紙のみ 297×240mm)
- ・コイル止め 価格 1部 1,200円(税別)

AMAZONにて好評販売中!

JPTA2021カレンダーで検索、または下記のQRを読み取ってください。



国家検定 ピアノ調律技能検定試験 指定試験機関



一般社団法人
日本ピアノ調律師協会

東京都千代田区外神田2-18-21 楽器会館5F
 TEL 03-3255-3897 FAX 03-3255-9246
 E-mail info@jpta.org https://www.jpta.org/

音の扉 3号 令和2年11月30日発行

編集・発行 一般社団法人 日本ピアノ調律師協会

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-18-21 楽器会館 5階

TEL.03-3255-3897 FAX.03-3255-9246 E-mail. info@jpta.org

表紙 絵/十二所秀正 題字/三浦幾代

制作・デザイン 株式会社 按可社 デザイン協力 秋山里奈

誌面の問い合わせは発行元へ。「音の扉」3号ご購入の方は一部200円(送料別)にて販売します。

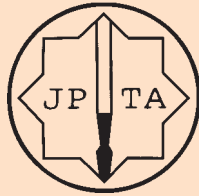
編集後記

「音の扉」3号お読み頂きまして大変有難うございました。創刊号スタート時より、少しは編集ペース・全体像も見ながら事を進めており、自身の気持ちの中にも落ち着きを感じます。これも原稿締め切り日を守ってくださる皆さまのお蔭と感謝しています。さて、3月以降コロナ禍の影響でほとんどの催しが中止・延期となり今日に至っております。調律師の世界でも、顧客訪問調律再開は、緊急事態制限解除6月以降となりました。それによる収入ダメージは大きく、国・自治体からのあらゆる支援に頼らなくてはなりません。調律師協会として支援概要を会員向け案内し、少なからず利用頂いたものと思います。そんな中での3号編集でした。2018年「羊と鋼」、2019年「蜜蜂と遠雷」映画が公開され、ピアノ関係者にとりましては喜ばしい内容でした。映画製作には多くのジャンルのプロが活躍されておりますが、その中でも役者の影で弾くピアニスト・調律師・録音技師にスポットを当て、取材を試みました。特に録音については、まったく未知の分野。時節柄、電話取材でしたが、知らないことをインタビューする時の心持ち、久しぶりの緊張感でした。質問についても冊子を創る立場で事を考えますから、どうも独りよがりの発想になりがちで反省するところばかりです。

さて、海外会員から嬉しい声が届きました。「日本人レスナーさんに 音の扉を配っています。日本の事情が判り有難い。しっかりした文章があり、且つ専門的な事が満載でとても良かった。」との嬉しいご意見を頂戴いたしました。更なる充実を目指します。

最後に本誌に対してご意見、希望がございましたら、上記発行元まで「音の扉」と記入の上お寄せ願います。

広報局 大嶽壽宏



<https://www.jpta.org/>